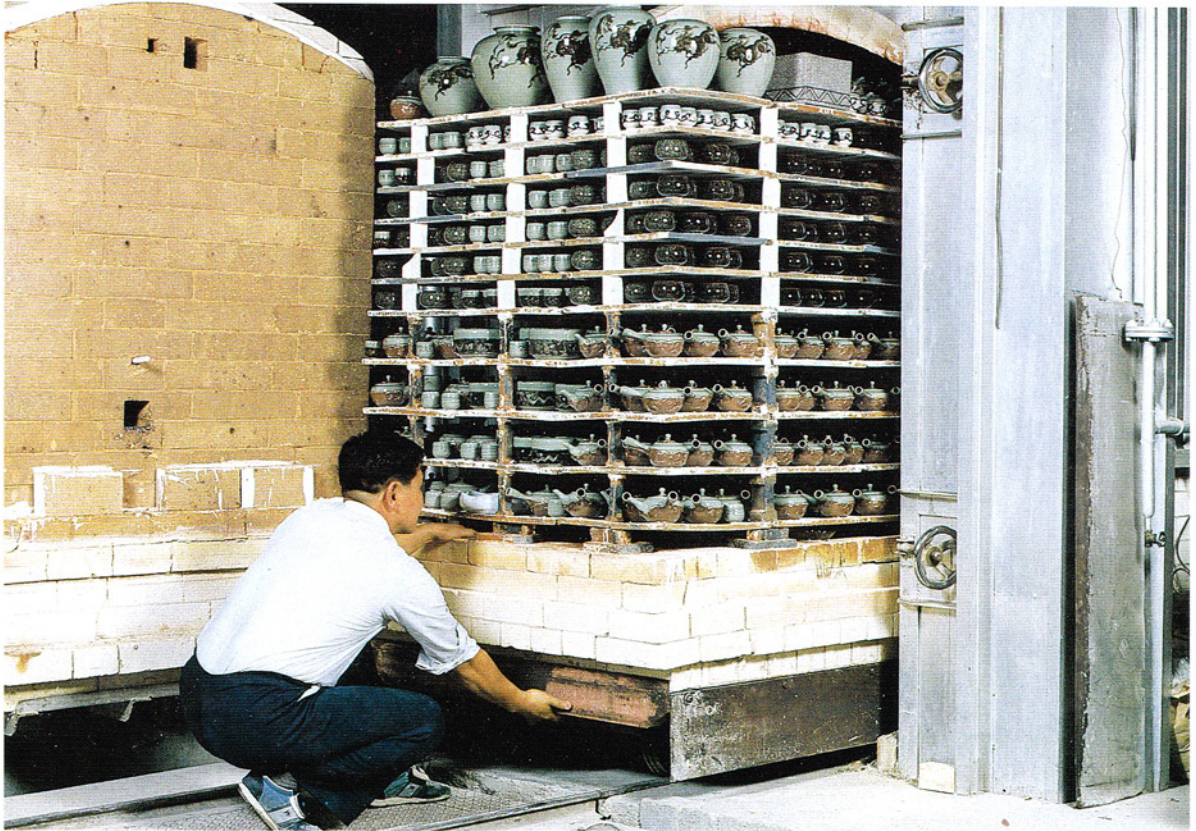


法人会ニュース

そうそう

第 7 号

発行所
相馬市中村字桜ヶ丘71
(株)相双法人会
発行人
会長 酒井利治
編集
広報委員会
発行月日
平成10年1月30日



支部自慢コーナー

⑦ 浪江町

毎号の表紙は、各支部の自慢の風景・祭り・ながめ等を載せご紹介します。

「うつくしま

の音30景」の一つ

大堀相馬焼の

かん にゅう おん
貫入音

大堀相馬焼は相馬田代駒焼の系統に属するもので、元禄年間の頃より現在まで、主に大衆的実用品が多く作られ、浪江町を代表する特産品の一つです。

窯出しの時に細かいひびが生じることから、「青裂焼（あおひびやき）」とも呼ばれてきました。実はこのひびが入るときに、「ピーン」「ピーン」という非常に繊細な音が出ます。これが貫入音です。今回、県の「うつくしまの音30景」に選ばれました。

窯出しの時に窯元を訪れ、この心が洗われるような音に接することのできたあなたは、本当に幸運な方です。

お問い合わせは、

大堀相馬焼共同組合

☎ 0240-3514917へ。

夢は限りなく 努力は惜しみなく



御相双法人会
会長
酒井 利治

平成10年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。旧年中は会員の皆様のお力添えのもと、社会貢献活動「ちびっこ相撲大会」、また青年部会においては県青年部会連絡協議会第5回会員研修会「相双大会」が盛大に開催できましたこと、厚く感謝を申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、我々産業界を取り巻く経済情勢は、緩やかな回復基調にあると言われながら、4月の消費税率の引き上げ、特別減税の廃止の影響による個人消費の伸び悩みに加えて、株価の低迷、生命保険・銀行・証券会社等の経営破綻が相次ぎ、景況観は急速に悪化し、不透明感の残るなか新年を迎えました。

会員各位におかれましては、この悪条件の中、またバブル後遺症で苦慮されている企業も多いかと存じます。しかしながら、私ども

も新しい年を迎え、自らの企業を活かす努力が更に求められており、この景気の動向を慎重に見守り、冷静な対処が必要であると考えます。このような環境の中でこそ、納税者団体として、税に対する良き理解者をあらゆる角度から広めることに鋭意努力しなければならぬと存じます。

21世紀を目前に控え、世界は大きく変わろうとしております。このような新時代において、日本の社会を支える法人企業の集まりである法人会の果たすべき役割と責任は大なるものがございます。申し上げるまでもなく、法人会の基本指針は「良き経営者を目指す者の団体」として、会員の積極的な自己啓発を支援し、納税意識の向上と企業及び社会の健全な発展に貢献することにあります。従いまして(株)相双法人会は、「企業は人なり」後継者育成を重点と考えながら、「夢は限りなく、努力は惜しみなく」をスローガンに、英知と情熱を以て邁進して参りたいと思っております。

年頭にあたり、役員、会員皆様のご健勝をご祈念申し上げご挨拶といたします。

みんなの力



相馬税務署
署長
森 喬

早いもので、1998年も1月が過ぎました。本年は異常気象のためか、新年早々大雪が降り大騒ぎでした。例年は3月のお彼岸前後にドカ雪があり、春の訪れを告げるのが恒例となっていました。もしかして、2月に春が来るのでは?と淡い期待を持っているのは私だけでしょうか。

ところで、昨年は相双法人会にとって充実した1年だったのではないのでしょうか。

地域社会貢献活動の一環として実施した「ちびっこ相撲大会」、青年部会主催の「青年部相双大会」と、大きな行事を大成功に為し遂げました。これらの行事は、相双法人会の親会や青年部会はもちろんのこと、女性部会の並々ならぬバックアップがあったればこそと確信いたします。また、組織の力と共に、会員一人ひとりが自分の行事として真剣に取り組まれた

結果でもあると思われれます。そしてもう一つ、日頃舞台に出ることのない事務局の汗を忘れることはできないでしょう。

本年も会員の力を結集し、相双法人会にとって素晴らしい1年であることを心からご祈念申し上げます。

さて、私も相馬の市民になって半年が過ぎました。

これまで青森県、岩手県、そして宮城県と勤務してきましたが、各地でそれぞれ気候や風土、人柄や人情と、その地域特有の何とも言えない雰囲気があり、その土地の良さを満喫してきました。

現在はマスコミが発達し、交通網が整備され、ある面では独自の地域性が失われつつあります。

これは、それぞれの地域を維持活性化していくためにはやむを得ないことと考える人もいるかもしれませんが、しかし、本当に郷土の発展を望むのであれば、地域の特性を生かすことが発展の近道かもしれないかもしれません。

相双地区は素晴らしい環境に恵まれております。皆様のご健闘をお祈りいたします。

「みんなの力」…。

会員純増

50名を目指して



相馬支部長
総務委員長
桜井 文博

皆様、新年あけましておめでと

うございます。昨年中は世の中全体のムードは決して良くない年だったような気が致しますが、相双法人会は会長を中心に役員、会員ともに協力しあったお陰で、所期の目的は達成されたようでございます。

さて、新しい年を迎えての私の抱負ですが、支部の目標としてはた

だ一点に絞っています。それは組織率の向上です。これは、組織委員会

で昨年より県内における相双法人会の現状から見て、このままにはしておけないということで、委員長を中心に頑張っておりますので、相馬支部としても具体的な活動計画に添った運動を展開して参りたいと考えております。目標は、純増50名を目指したいと思っています。それと、総務委員会としては昨年の組織改正でメンバーも増員していただき、各地区の意見の集約もできやすくなりましたので、各支部が活動しやすくなるお手伝いをどんどんとやっていきたいなと思っています。

本年は厳しい不況の中、特に金融業界関係の思いもよらぬ出来事を多く抱えたまま迎えた年明けとなりました。これは、わが国の高度経済成長を成功に導いた日本型システムが、ここ数年の世界政治経済の激変により通用しなくなつた、それどころかそれが裏目となつて、今までのツケが昨年一挙に表面化したからです。

言い換えれば、過去の成功の要因が、いまや失敗の原因になって

和気あいあいの

支部づくりを



新地支部長
税制委員長
渡部 昭三

新年のお慶びを申し上げます。

昨年はい皆様のご協力ご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

当会の活動方針として、会員増強に役職員一体となって法人会の目的、役割等を説明しながら入会勧誘をしてきた1年間でした。

今年も組織強化を計りつつ、税制及び税務に関する講習会・講演会の開催、機関紙・各種資料の配

しまつたということで、今後は発

想の転換も必要となります。さりとて、既存の日本型システムをすべて捨て去るべきではありません。

私たち法人会としても、「良き経営者を目指す者の団体」という基本方針を堅持しつつ、一方では、

例えば新しい時代に適合した官と民の在り方を、もう一歩踏みこんで考えてみることも必要でしょう。そんな年にしたいものです。

付等、地味ではあるが着実に事業計画を実施していきたいと思ひます。また、会員相互の親睦を計るための事業も積極的に行い、和気あいあいの新地支部づくりをした

いと考えています。今年も景気の動向は悪くなりつつあるようですが、お互い切磋琢磨し、健全な納税者団体として、企業経営の健全な発展を図ることを目標として努力致しましょう。

最後になりましたが、健康には十分気を付けてご活躍下さるようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶と致します。

更に組織率の

向上を推進



飯館支部長
高橋 英明

新年あけましておめでと

ございます。当法人会も発足してから4年が経過し、当初加入数26社が昨年末には39社と、加入率が全体の65%となりました。これも役員の皆様の会員増強活動の賜と、大変感謝しております。

さて、昨年は大手証券会社や建

新年の抱負

良き経営者を目指して



原町支部長
松永 輝彦

新年あけましておめでと

設会社の倒産等、今まで日本経済の経験したことのない状況が続きました。今年も、この経済の流れは一層の厳しさを増し、進むものと考えられます。このような中、地域に根を張る法人会としては、良き経営者を目指す者の団体として、社会貢献を基本理念に組織率の向上を図り、事業活動の活性化を推進して参りたいと考えております。

会員各位の益々のご健勝をご祈念申し上げ、新年の挨拶と致します。



鹿島支部長
菅野 俊夫

調和のとれた 活動の強化を

謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年中は役員及び会員の皆様には何かとご指導ご支援を賜り、ありがとうございます。

昨年の景況観は、中小企業ばかりでなく大手企業にも比較的「悪い」が目立っていたようです。更には超大型金融機関の破綻は、戦後組織の崩壊と転換を示唆する象

一商研命に汗を流して



小高支部長
菅野 万正

明けましておめでとうございませう。

昨年は大変な年でした。昨年の年頭に96年は苦勞の年、97年は苦無しの年なんて申しましたが、何と、何と苦が7倍もの年でした。

徹底的出来事により、各企業も悪いという心理が経営者に働いているようです。しかし県内におきましては、磐城自動車道の全線開通やJヴィレッジのオープンなど21世紀に向けた基盤整備の進展、政府では特別減税を柱とする景気回復策を明らかにしたものの、経済対策に効果は上がるかどうか、希みは新年の最大課題であり、諸規制緩和による競争社会に突入すると思えば、経営者は企業の自己責任の考え方に置き、競争は時代であることを認識すべきと思います。

法人会の役割としても住民の声を聞く機会を増やし、組織の力で

今年の98年はどんな年なんだろう、昨年よりももっと厳しくなるのではないかと、と言うのが実感です。地方市町村による公共投資の大幅削減で土木建設関係の工事の激減、地元企業のリストラによる人員削減と採用手控えによる失業者の増加など、暗い見通しばかりです。

しかし、悲観ばかりしてはられません。「苦あれば楽あり」「夜明けのない夜はない」とか「冬来たりなば春遠からじ」と言います。

「良き経営者を目指す者の団体」として調和のとれた諸活動の強化を図り、地域経済の発展に寄与して参りたいと思っておりますので、会員皆様方のご理解とご協力をお願い致します。

皆様のご理解と ご協力を願って



浪江支部長
厚生委員長
熊川喜八郎

明けましておめでとうございませう。

年明け早々厳しい経済環境では

この言葉を信じて、この困難を乗り越えて行かねばなりません。

どうしたら乗り越えられるか、今更別の事業につき訳にはいきません。自分の店をもっともっと好きになることだ。そして店のお客さんを好きになること、奥さんはじめ家族を好きになることだ。朝暗いうちから夜遅くまで一商研命に汗を流して、この不況を勝ち残っていきたい。

一商研命(一つの事業に命を賭けて研鑽する)私の新語。

ありますが、我々浪江支部として心を新たに、法人会活動を積極的に取り組むべきと考えております。

例えば、未加入法人に対しては「法人会とは何か」と理解をいた

「法人会とは何か」と理解をいたしながら加入を勧め、会員増強も図りたいし、また厚生委員長としての立場から役員・会員を問わず、経営者が安心して仕事に就ける裏付けとなる大型保障制度をもっともっと理解していただく努力も必要かと考えますので、会員皆様にご協力をお願いします、良き経営者、良き法人会を目指し1年間頑張りしたいと思います。

支部活動の積極的な展開を



双葉支部長
研修委員長
松本 定雄

謹賀新年。

昨年の日本経済は激動の1年だった。今年も前年の延長と見てはどうか。このような厳しい環境の年

勇気・知性 やる気を出して



大熊支部長
千葉 公平

謹賀新年。

昨年は緩やかながら景気が上昇するかの期待は見事に裏切られ、引き続き金融破綻等々が相次ぎ、景気の行方は混沌として、新聞等で報道されているように明るい材料はなく、悲観的で不透明である。結論から言えば、今年もこの状況が続く限りは、厳しい年になるのは火を見るより明らかである。我々

には、各社のリーダーにとってもまさに正念場、更に意識の改革が必要かと思う。私も、今年度は従来にも増して次の4つを基本の柱に事業を推進していきたい。

- ①ネアカの精神
- ②プラス思考
- ③基本に忠実
- ④積極的な行動

双葉支部も、これらを考慮に入れないながら支部活動の展開を図っていききたい。まず、①親睦活動として親善ゴルフ大会と新年会の開催

②温泉一泊で先進地視察研修と恒例の新春経済講演会の開催、③会員増強については、現在加入率は相双地区第2位であるが、更に70%突破を目指したい、④地域社会貢献事業として、今年も郡山海岸の清掃作業の実施、⑤福利厚生事業として、大型保障制度の加入率の向上を計りたい。今年も以上の達成を目指し、会員共々頑張りたいと思います。

法人会はこの時こそ、良き経営者を目指す団体として会員一丸となつて、未だかつて遭遇したことのない大波をどう乗り切っていくか、身を引き締めて、これらに立ち向かっていく時期がきたことを認識すべきであります。これが、我々

才気と実行力 健康と存続



富岡支部長代行
石川 昭久

新しい年を迎え、混沌とした世

情、低迷を続ける景気、昭和一桁(1927生)の人間にはここで維新が起らねばと念ずるが、初夢にもならぬ世迷い言か。

ドラッカーの言、「事業の『第一義務』は存続することである。」にもかくにも企業経営者は、いかなる状態においても利益を得る才気と実行力とそれを支え勧める健康が必須である。

税務署だより

税務署からのお知らせ

一、確定申告は電車やバスで皆様ご存じのとおり、相馬税務署の駐車スペースは非常に少なく、ご不便をおかけしております。

確定申告時は、極力電車やバスをご利用願います。

二、特別減税(予定)実施のお願い

この度の税制改革で、特別減税が予定されております。

現時点では法案が成立しておりませんが、成立の折には給与所得者に対し、2月支給分の給与から控除することとなります。忘れずに実施してください。

世界保健機関(WHO)、『健康ということ』病気でないというだけでなく、何事に対しても前向きな姿勢で物事に取り組める精神及び肉体、そしてかつ社会的適応の状態を。

まずは心身の健全を念ずる。

組織率の向上に 絶大なるご協力を



組織委員長
泉田 隆

新年御目出とう御座居ます。平成九年は、過去に経験したこのない一部上場企業の倒産や、証券会社・銀行までもが経営できなくなる会社が出る程厳しい1年でありました。こんな時代なのに、

バブル崩壊とかビックバンとかの一言で片付けて良いのでしょうか。これらの企業の従業員や家族のことを考えると、経営者の一人として何ともいえない気持ちです。

前述のような経済情勢ですので、法人会の組織率も全国的に低下(63%↓61・9%と1・1%の低下)しております。県法連では63・8%↓62・5%と1・3%の低下であります。当相双法人会も62%↓58・8%と3・2%の低下でありました。この58・8%の加入率

名の心に感動と満足を残してくれる。

感動と満足 継続と定着



広報委員長
高野 建夫

「そうそう」2号の表紙で、新地支部のご協力によって『鹿狼山』を掲載したが、私は今年も元旦登山を経験し、素敵な記念シールとキーホルダーを戴いた。いつも思うが、打ち上げ花火等の客を迎える準備や企画、整理に深夜から係わった人たちや、家族の理解と協力があってこそ、登った1800

広報委員会の活動も全く同じで、この広報紙が読む人、企業にどれだけのことを伝え、感動と満足を感じているか——一番気になるし、会員拡大の一翼となれば!!とも考えます。が、まず10支部で表紙・裏表紙を担当し、いろんな経験の上に継続・定着できる手法を確立することだと思ふ。それに今年は、法人会・税務署の事業・催事の多少に係わらず、常に客観的な目で現実を見つめる力、記録する力を養わねばならないと思ふので、皆様のご支援ご協力を賜りたい。

は、県内10法人会のうち最下位となっております。平成9年10月に開催された県法連組織委員会の席上、加入率アップについて強いご指導をいただいたところでありました。

11月に相双法人会の組織委員会を開催し、各支部においても役員会等を開き、加入率アップに努め

経営者大型保障制度の採用推進を

大同生命原町営業所

所長 鹿 侯 正 晴

新年明けましておめでとうございませう。

旧年中は、法人会の各種福利厚生制度の推進につきましてご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は日産生命、拓銀、山一証券等、相次ぐ金融機関の破綻により、金融機関の不倒神話が崩れた年でもありました。このことから金融機関を見る目が厳しくなり、同時に金融機関の「格付け」が注目を集めるようになりました。

当社の場合、得意なマーケットに特化した営業を進めていること、保障性商品のウェイトが高いこと、株式の占率が低いこと等から、格

付機関の評価もA+、A A一等、上位の格付けをいただいております。これも法人会の中で仕事をさせていただいているお陰と、感謝致しております。

- 法人会経営者大型保障制度は、
- ①A I Uセットにより生保では保障できない分野の保障もある
 - ②90歳までの長期保障ができる
 - ③団体割引による割安な保険料
 - ④全額損金算入できる

等の特徴を有し、10年更新型、長期平準型、通増型、通減型の4タイプがありますので、企業で抱える様々な人的リスクに対応できるものと確信しております。更に、

保険料を低く押さえた「5年毎利差配当付定期保険」の販売でバリエーションも広がっております。俣、この制度から発生する事務

委託費が県連、単位会の財源の一部となつていふことから現在、役員加入率60%、会員加入率20%を達成しようというキャンペーンを実施中です。未加入の会員企業様におかれましては、是非大型保障制度採用のご検討をお願い致します。

原町営業所の人員も昨年より増えておりますので、各支部にその地区の担当者として少なくとも1名以上は配置できるようにいたしました。今まで以上の情報、サービスの提供を心掛けると共に、法人

リスクの変化に対応した保障の見直しを

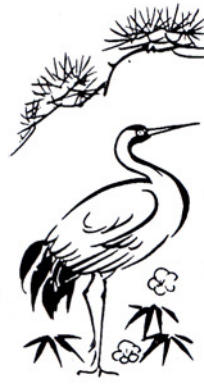
新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈り申し上げます。

法人会会員の方々にとりまして素晴らしい年でありますようお祈り申し上げます。

さて、ますます高度・複雑化する

会と一体になってこの制度を推進していく所存でありますので、今まで同様のご厚情ご協力を合わせてお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員皆様のご健康と企業のご発展を祈念致しますして、新年のご挨拶とさせていただきます。



A I U 保険会社

郡山支店長 矢留 茂

る社会の中で、企業を取り巻く潜在リスクに対しての備えはされていることと思ひます。

しかしながら、より効率的な対策（リスクに見合った備え）がなされているところは、残念ながら少ないのが現状ではないでしょう

か。

このことは、加入に関して保険会社が必ずしもリスクに見合った商品を提供しているとは限らず、又、つきあいのための保険、とりあえず加入しておけば安心という風潮がもたらしたものと申せま。

「万一の時に、加入時に意図していたものと違っていた」あるいは「リスクが変わっているのに、毎年同じ保障内容で継続されてきた」などということを目にする度に、現状の在り方を変えていかなければならないと思う次第です。

法人会の福利厚生制度の損害保険分野（任意労災、火災、賠償）の受託会社でありますA I Uは、より効率的な保障制度（リスク診断、防災、保険商品）を提唱してまいります。

その一つとして「任意労災プラン」がありますので、その特徴について述べさせていただきます。

(1) 労災保険の認定を待たずに保険金が支払われます。保険金を見舞金などとして迅速に支払うことにより、トラブル発生のリスクを減らすことができます。

(2) 労災保険で支払われない休業3日目までの補償に入院保険金、通

院保険金を利用できます。

(3) 保険金は会社受取りにでき、従業員のための保険料は全額損金処理できます。

(4) 地震を含む業務中の天災を補償します。

阪神淡路大震災では、地震による災害でも労災と認められる事例が相次ぎました。地震による労災事故に対応できるよう、天災（地震）を担保する特約が標準付帯されています。

(5) 加入者の記名を要しない方式（準記名方式）をとることもできます。

パート、アルバイトなど加入者の入れ替わりが多い場合の加入漏れを防げます。

(6) 会員向けの割安な保険料が適用されています。

(7) 24時間健康・医療相談サービスが付帯されています。

ケガの応急処置、夜間・休日の医療機関案内など24時間年中無休で医師、看護婦に相談できるサービスです。

是非、保険も財産という観点から、より効率的なものとするためにも現状の保険の見直しをお願い申し上げます。

稲盛和夫氏の経済危機克服への提言

減税で「小さな政府」

二つの分かれ道

日本は二つの意味で分かれ道に
来ている。

一つは、経済が恐慌を避けられるかどうかの岐路である。もう一つはそのことと関係するが、政治・社会が、グローバル・スタンダード（世界標準）に合わせるという革命に耐えられるかどうかの岐路である。

戦後、日本経済の「体格」は立派に育ったが、バブル崩壊で無残に痩せ衰えた。極みが北海道拓殖銀行であり、山一証券である。

さあ大変だと政府・与党は、三

稲盛 和夫氏



いなもり・かずお
京セラ名誉会長。1959年京都セラミック（京セラの前身）を設立、戦後ベンチャーの旗手。現在第二電機に。97年9月鹿島県門に入った。鹿島県生まれ。65歳。

十兆円ともいう金融システムの安定策を発表した。

金融が動揺すれば、影響は大きい。この方面の手当てを急いだのは理解できるし、現状で考え得るだけの手が打たれたことを、私は評価する。遅滞なく実施されなければならぬ。

しかし、忘れては困る。銀行や証券会社に特別の対策を講じたのは、彼らの傷が特に大きかったからで、一般の企業や家計がバブル崩壊を無傷で通り抜けたわけではないのである。

国民はだいたい前から、次のような問いを発していた。「最近ちょっとやせたのは、毎日食べている食事（景気）が粗末になっているからか。もっと栄養（経済対策）が必要か」と。

「いいえ気のせいですよ。栄養満点、ご安心を」と偽りを言い続けてきたのが経済企画庁で

ある。

族議員は恥を知れ

所得・法人税を減税する。公定歩合を引き上げ、預貯金の金利水準を底上げする。それらをただちに行い、企業の投資意欲と個人消費を刺激する以外に、健康体に戻る手段はない。

所得税は、現在最高50%の最高税率を35%まで下げたい。法人税の実効税率は速やかに10%引き下げる必要がある。土建業界だけを潤す公共事業の追加などが、この際、意味のないことは、いうまでもあるまい。

大胆な減税をしようと思えば、歳出は削らざるを得ない。減税を「小さな政府」への入口にする、その視点がほしい。カギを握るのは政治家であり、経営者である。日本が踏み出したのは、官主導から民主導への改革である。民主導とは、民の選んだ政治家の主導ということにほかならない。

だが、思い返してほしい。年末の予算編成や、郵政三事業の民営化を巡る論議の過程で浮かび上がったものは、一体、何だったか。省庁の意を受けて構造改革つぶしに

狂奔する族議員の姿である。

民の選んだ政治家が官の手先に成り下がる。これでは、何のために我々が民主導を選んだのかが分からない。政治家は恥を知るべきである。

さらば「聡明才弁」

経営者は企業の責任者である前に、人間として立派でなければならぬ。「善」を実行できるかどうかは別にして、最低限、「悪」との区別がつく人でなければならぬ。

自分が社長になり、先代、先代の不祥事を知る。善悪の区別がつく人ならば、「当時は当時で諸先輩には、言うに言われぬ事情があったのだろう」などと、あいまいな態度では、絶対に済まさない。相手が、自分を社長に選んでくれた先輩であれ、実力者であれ、理非曲直を厳しくただすはずである。それが経営者である。

中国の明代の学者、呂新吾は、その著書「呻吟語」のなかで、第一等の人格として、「深沈厚重」を挙げている。「聡明才弁は第三等の資質なり」とある。頭が良くて才能があり、弁舌が立つという

ことは、その程度の資質でしかないという意味である。

日本は、「聡明才弁」を公務員の上級職に送り込み、社長に取り立ててきた国である。その弊を、一連のスキャンダルに見舞われた企業に見る思いがする。「聡明才弁」は今後も、組織の下を支える

人材として必要には違いないが、経営者の適材は別にある。

コーポレートガバナンス（企業統治）などをうんぬんする前に、企業はリーダーの選び方を考え直すべきだと思う。

（聞き手 経済部 竹内政明）

平成10年1月17日読売新聞朝刊より転載

女性部会県連絡協議会 会員研修会誘致か？



女性部会長
洪佐 洋子

あけましておめでとう存じます。1998年の元旦は、来るべき21世紀への大いなる期待を乗せて、輝かしい旭日と共に明けましたが、昨年を省みますと、企業人にとって大変な時代の到来であり、今後瞬間の油断も許されない年明けである、覚悟を新たにするとこ

ろです。初めての企画である社会貢献活動も、女性部会員の真摯な、そして平常の家事のお手並みをまさに垣間見るような働き振りで、二千食を捌き切ったチャリティーピッ

子チャコン鍋でありました。

青年部会の県連絡協議会第5回会員研修会相双大会にも、女性部会が招待を受けて椎谷副部会長が出席し、その統制のとれた大会の素晴らしさに感激されました。

私も女性部会にも県連絡協議会の機運があり、近い将来、会員研修会などもあること存じますので、青年部会をお手本にさせていただきます、会員各位の参加を期待します。

昨年は、不手際で総会が遅くなっ

てしまい、大変恥ずかしい会運営でございましたが、今年こそはそれを挽回して、軌道に乗せて相双法人会女性部会の更なる発展を念じたいと思います。

に発揮していただき、法人会女性部会が親睦を深め合い、税について勉強をいたしましょう。

全国青年の集い 「福島大会」

平成12年に開催



青年部会長
只野 裕一

皆様には、平成10年寅の年をご壮健にてお迎えのこととお喜びを申し上げます。

昨年は社会貢献活動として、大相撲の玉ノ井親方、栃東関を迎えて、相双チビッ子相撲大会の大成功。そして、俵孝太郎氏を講師として第5回県連会員研修大会の開催と、盛り沢山の年でありました。しかし、いずれも税務当局、関係諸機関、そして親会、会員皆様のご指導ご協力を頂きまして、相双法人会の名を汚すことなく終了できました。改めまして厚くお礼申し上げます。

さて、標記の全国青年の集いは、本年の10月に冬季オリンピックが行われた長野市で開催されます。参加会員が2千名を超え、予算額

も5千万円を超える大変大きな規模で行われます。（親会の全国大会より盛大で、時々お叱りを受けております）

この催しは、翌年が沖繩で行われ、その次の年、平成12年がいよいよ仙台国税局管内、そしてその開催県として福島県に白羽の矢が立ち、ご指名を受けました。

今年から準備体制をつくり、本番を目指します。福島を全国の会員に知ってもらう絶好の機会を与えられました。

先日の県連の会議でも、県内一丸となって協力して、成功に向けて努力することを誓い合いました。そして、この集いの主催は全法連であり、受入窓口は福島県法人会連合会です。

我々青年部会が全力を傾注して取り組めますので、主催の立場からご指導お力添えを頂きますようお願い申し上げます。



大聖寺と国重要美術品 「銅鐘」

県重要文化財 「旧渡部家住宅」

浪江町幾世橋北原に真言宗名刹大聖寺がある。元禄14年(1701年)、時の藩主昌胤公は37歳で家督を養子叙胤公に譲り、この地に北原御殿と呼ばれる館を造営し、

没するまでここに住んだ。この御殿正門の遺構は現在の大聖寺山門として残り、その扉はかつて御殿裏門で使われていたものである。山門左手にある銅鐘は、

昌胤公が興仁寺に奉献したものであり国重要文化財、大晦日には独特の音色を響かせる。

また、ここには昌胤公と6代藩主尊胤公の墓所もある。なお、大聖寺境内には、現在東北地方南部では珍しいアカガシの樹群(県天然記念物)がみられると共に、江戸後期上層民家の造りを示す旧渡部家住宅(県重要文化財)がある。また同寺は、文明6年(1474年)の銘のある紙本着色両界種子曼陀羅(県重要文化財)を所有している。

本堂前の梅林は2月下旬頃からが見頃、町民が訪れる。



大聖寺の「銅鐘」(国重要文化財)



「旧渡部家住宅」(県重要文化財)

編集後記

◎臨時ニュースで、大蔵省金融検査室幹部が収賄容疑で逮捕されたと報道している。日頃「日銀が入る」「次は大蔵だ」と関係者はびくびくしているものの、何と中身の一部はこんなものか。第6号の編集後記にも書いたが、結局「官判」を押しもたらうために金と金を使い、誰も責任をとる気もなく、ただ結論を先送りしている。本人や周りの人たちは、「誰もがやっている」「気の毒だが運が悪い」程度の反省しかない。この人たちに退職金は支給されるのだろうか。太古から、情報を持つ役人と軍人が一番「ずるい」と云われる。民間人だったらどうなるの!!即「クビ」である。

◎米国は、国全体が一人か二人の女性のために大騒ぎしている。これが世界恐慌の元凶になりやしないか!!ハラハラしているのは編者ばかりか。

◎第8号の表紙と裏表紙は双葉支部にお願いしたい!!